

名古屋教区 能登半島地震災害支援 12 月報告書

1. 被災地の現状

国道 249 号のうち珠洲市の「逢坂トンネル」付近のおよそ 1.7 キロの区間は、元日の地震で土砂崩れが発生し、通行止めが続いていたが、トンネルをう回する形で、地震で隆起した海岸に幅 5 メートルほどの仮復旧の道路を設けたことで、12 月 27 日、地元民と緊急車両に限定して通行できるようになった。これにより『奥能登の大動脈』と呼ばれる、能登半島を 1 周するように沿岸部を走る国道 249 号は、2024 年元日以降およそ 1 年ぶりに全線（輪島市門前町と珠洲市若山町を結ぶおよそ 53 キロ）での通行が可能と



本来半島を抜ける逢坂トンネル(赤丸部分)があったが、土砂で封鎖されたため、がけに沿って新たな道を作っている。(黒いトン袋部分)

なった。輪島市の白米千枚田付近では、元日の地震により隆起した海岸にう回路が整備されていたが、9 月の豪雨で再び流木や土砂が流れ込む被害を受けた。こうした中、国土交通省は輪島市野田町から名舟町までの区間で整備したう回路およそ 1.2 キロについて、これまでの 1 車線から、2 車線の対面通行ができる道路を確保した。輪島市の 70 歳の男性は「待ちに待った開通です。珠洲市の実家まで 2 時間半ほどかかっていましたが、10 分ほどで行けるようになります」と話した。

(参照：NHK NEWS WEB 2024/12/27 他 <https://www3.nhk.or.jp/news/html/20241227/k10014681211000.html>)

共同通信は 26 日、能登半島地震で大きな被害を受けた石川県 6 市町（七尾市、輪島市、珠洲市、志賀町、穴水町、能登町）にある全 314 の宿泊施設のうち、11 月上旬時点で一般宿泊客の受け入れを再開しているのは 16% の 51 施設あると発表。現地は観光を楽しめる状況なのか、復興作業の妨げにならないかといった疑問に応えるような記事が載っていた。



「正直まだ観光といった雰囲気ではなく、復旧工事業者の受け入れで宿泊施設はほぼいっぱい。ただ、日帰りで楽しめるスポットとして、道の駅『すずなり』では地元料理を提供し、パワースポットとして有名な珠洲岬の『青の洞窟』も、営業を再開している」（珠洲市観光協会）

『ホテルルートイン輪島』など、一部の宿泊施設が一般客を受け入れている。道の駅『輪島』をはじめ営業を再開する店も増え、『輪島朝市』も市役所近くの商業施設内で続いている。現地でお金を落としていただくのも支援のひとつなので、今できる範囲で観光を楽しんで欲しい。しかし、多くの場所で復興が進んでいないのも事実。輪島の現状を見て、考えを深めていただければ。」（輪島市産業部観光課）

七尾市の和倉温泉は、北陸有数の温泉街。旅館 21 軒のうち通常営業を再開しているのは 4 軒のみ。「営業している旅館には、どんどん来て欲しい。『総湯』は日帰りでも利用でき、源泉 100% の温泉を楽しめる。来年春以降は、さらに 5 軒が通常営業を再開できる見通し。」（和倉温泉観光協会）

(参照：2024/12/28 日刊ゲンダイ DIGITAL

<https://news.yahoo.co.jp/articles/f877fe04c4f9935367935be6d1bfc7f644e8fd10>)

2. 名古屋教区の活動について

① シスターズリレー

シスターたちはベースで生活しているため、買い物などで出かけることも多い。そんな中で出会う高齢者、店員、支援先の方たちなどと話をする機会を大切にしている。

今年度最後のリレー選手として、このプロジェクトの責任者であるシスターも自ら体験してくださった。



② 七尾支援活動

【クリスマスプレゼント】

手作りカードや小さな長靴に入ったお菓子、手作りキーホルダー等、全国のみなさまから頂いた心のこもった贈り物をパッケージにして、カフェの各所、またこれまで水支援でつながりのあった地域の方々、そして物資を届けている方々にお贈りした。プレイヤーショールという、使ってくださる方のために祈りながら編まれたショールもその後お届けすることができ、温かな毛糸にくるまれてうれしそうな表情を見せていただけた。

全国からのさまざまな
手作りグッズと お菓子
の詰め合わせは世界
に一つだけ！



○ 聖母幼稚園前

屋外で行う冬のじんのびカフェは、「より温かく、よりゆっくりと」できるスペースを試行錯誤しながら改良している。ついに「じんのびこたつカフェ」を開発。さらに建物の間から吹き込む風をブロックするためにビニールカーテンも試している。

通りを歩く方に声掛けし、新たにご夫婦2人、中学生2人が立ち寄ってくださった。屋外でのカフェは天候の影響を受けやすい反面、立ち寄りやすいというメリットもある。



中には小型ストーブ
を入れています



○ 能登島向田第1団地

この日はバルーンアートをするボランティアがサンタになってクリスマスツリーや飾りを作ってくださった。子どもの参加がなかったのが残念だが、来られた女性たちは孫やひ孫のプレゼントにすると喜んでくださった。

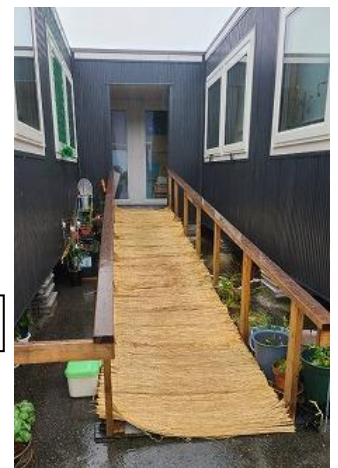


【民間災害 VC おらっちゃ七尾での活動】

ゴミの分別の難しさ、煩雑さを全国からいらっしゃるボランティアにどう分かりやすく共有できるかは、おらっちゃの大きな悩みである。

【おらっちゃ七尾を通して仮設住宅へむしろ 1,000 枚を寄付】

七尾市で雪対策用ムシロを設置したが、不足を補えないということで、民間団体で支援ができないかとの要請があった。降雪期に入り緊急性を要することであるため、のとセンが寄付することにした。向田カフェの日におらっちゃの代表者に引き渡し式があり、さっそくスロープに敷いた。



③ 輪島支援活動

むしろは雪の時期には転倒防止のために重要です

○ 輪島 ふれあいプラザ二勢

12 月の二勢カフェは 23 名が来てくださった。おらっちゃ七尾にボランティアを申し込まれたハンドマッサージと傾聴ボランティアの方が参加された。このようにおらっちゃに加盟している団体の間でニーズとシーズの融通を利かせ合っている。

輪島市社会福祉協議会からはぜひカフェ活動を、とお願いがあったため、今後も相談しながら別の場所にも広げていければ、と考えている。

④ ついたちの祈り、ついとうの祈り

日曜日で幼稚園がお休みのため、大人だけの祈りとなった。

この祈りに初めて参加された地元のおばあさんがいらした。「何にもわからんけどいいんか?」と遠慮しながら、最後までいっしょにいてくださり、時折涙しておられた。

⑤ ミーティング

【第 2 回運営委員会】

今回はシスターズリレーを企画している日本女子修道会総長管区長会の Sr. 宮協会長がオブザーバーとして出席され、これまでのリレーの振り返りと今後の展望について話をいただいた。ベース長からは、活動を終えて帰ってくるボランティアを温かい食事で迎え、みんなで食卓を囲んで会話ができるように、簡単な夕食を準備していただくよう要望を伝えた。

第 4 フェーズからは募集体制を大幅に変更し、より多くの方が参加しやすいように門戸を開くことも伝えた。カトリック教会では 2025 年に「通常聖年」を祝うが、巡礼指定教会に七尾教会と、輪島教会が入っているので、何か企画ができないだろうか、との声も聞かれた。

会議の翌日は輪島市町野町曾々木地区に視察に行った。まだ生々しい豪雨の爪痕が至る所に見られた。

岩盤が堅かったため地震ではあまり被害がなかった場所が、豪雨による土石流で大きな被害を受けた

八世乃洞門新トンネルは今も電気が通っていないため、トンネル内は真っ暗！



田んぼの一角に、へし曲がったり、バラバラになったりした重機の群れを見つけた。地震被害の復旧のために働いていたのだろう。ありがとうございました…。



⑥ 高校生たちの活躍

全国の学校関係者から様々な形でご支援の申し出をいただいているが、ある高校からは寄せ書きの横断幕いただいた。カフェの時に飾らせていただいている。

12月27、28日は岐阜県と三重県からカトリック高校2校が訪問し、輪島と金沢の2か所で合唱、ダンス、ハンドベルのコンサートをしてくださり、特に輪島の会場には企業側のご協力もあって、買い物に来られた方など多くの方が足をとめてくださり、若い力に心をいやされたようであった。



12月28日 金沢教会にて



12月27日 ワイプラザ輪島店にて